

平成29年度
原子力施設等防災対策等委託費
(高度被ばく医療支援センター及び原子力災害
医療・総合支援センター業務の実施)
事業

成果報告書

平成30年3月
国立大学法人 弘前大学

本報告書は、原子力規制委員会原子力規制庁の平成29年度原子力施設等防災対策等委託費による委託事業として、国立大学法人弘前大学が実施した平成29年度「高度被ばく医療支援センター及び原子力災害医療・総合支援センター業務の実施」の成果を取りまとめたものです。

目 次

第1章	はじめに	1
第2章	「高度被ばく医療支援センター」及び 「原子力災害医療・総合支援センター」の運営	2
2.1	緊急時情報共有体制の整備	2
2.2	自施設職員への基礎研修の実施	4
2.3	自施設職員への定期訓練の実施	9
2.4	専門派遣チーム及び原子力災害医療派遣チームのための 資機材等の維持管理	11
2.5	地域原子力防災訓練等への参加及び助言・指導	12
2.6	「原子力災害医療派遣チーム」の派遣調整体制の整備	15
2.7	原子力災害医療体制の構築	16
第3章	高度・専門的な教育研修の実施	20
3.1	原子力災害拠点病院の中核人材等に対し行う高度・専門的な 教育研修	20
3.2	原子力災害医療派遣チームが派遣先で活動するために必要な 高度・専門的な教育研修	22
第4章	「高度被ばく医療支援センター」及び 「原子力災害医療・総合支援センター」の事務局長の取組	25

(空 白)

第1章 はじめに

弘前大学は、多様な原子力関連施設を擁する地域的な背景を踏まえ、東日本大震災前の平成20年4月から被ばく医療体制の整備及び被ばく医療に関わる教育・研究ならびに人材育成に取り組んできた。

平成22年3月に被ばく医療教育研究施設として、放射線生物学部門、放射線物理学部門、放射線化学部門及び被ばく医療学部門の4つの部門からなる被ばく医療総合研究所を設置した。加えて、平成22年4月には医学部附属病院に、被ばく傷病者専用の初療室を始めとし、体表面モニターやホールボディカウンター、甲状腺モニター等の計測機器や内部被ばくを評価する化学分析室を備えた高度救命救急センターを設置する等、被ばく医療のバックアップ体制の整備を進めてきた。

これらの取組は、平成23年3月11日に発生した東日本大震災に伴う東京電力福島第一原子力発電所事故対応において、避難所での支援活動や様々な学術調査、情報発信等、多くの貢献につながった。

また、平成22年度から平成26年度まで、文部科学省科学技術戦略推進費による「地域再生人材創出拠点の形成」事業において、国の原子力政策における危機管理対策の一環として、被ばく医療に関わる高度な専門的知識、能力や技術を有する人材を育成し、医療、教育・研究及び行政機関等において、被ばく医療に対応できる体制を構築するため、「被ばく医療プロフェッショナル育成計画」を実施した。プロジェクトの事後評価では、所期の計画を超えた取組が行われているとされ「S」評価を受けた。さらに、国立大学法人評価委員会より、第2期中期目標期間の業務の実績について、緊急被ばく医療を担う地域の求める特色ある人材の養成を目指した戦略的・意欲的な計画を定めて積極的に取り組んでいるとの評価を各事業年度において受けた。

その後、国の原子力災害対策指針が改正され、原子力災害時及び平常時における被ばく医療体制が大きく見直されることとなり、弘前大学は、これまでに培われた人的、組織的及び学術的資源をもとに、平成27年8月に原子力規制委員会から原子力災害医療に対応する施設として「高度被ばく医療支援センター」及び「原子力災害医療・総合支援センター」の指定を受けるに至った。

本事業は、原子力規制委員会により「高度被ばく医療支援センター」及び「原子力災害医療・総合支援センター」に指定された弘前大学が、「原子力災害時医療体制」の構築等に向け、センター運営に係る人材育成・施設維持、高度・専門的な教育研修等を実施するものである。

第2章 「高度被ばく医療支援センター」及び 「原子力災害医療・総合支援センター」の運営

2.1 緊急時情報共有体制の整備

(1) 緊急時通信機器等の整備

災害時用通信手段として衛星携帯電話・衛星ブロードバンドシステム（IPSTAR）・衛星電話用Wi-Fiルーター（医療派遣チーム活動時用）を前年度から引き続き維持管理を行った。また、平成28年度に設置した統合原子力災害ネットワークシステムについては、毎月1回原子力規制庁及び他支援センターとの定期導通テストにて動作確認を行った。

(2) 原子力規制庁・支援センター間の情報共有体制構築

原子力規制庁及び支援センター間で情報や課題を共有・協議する場である高度被ばく医療支援センター及び原子力災害医療・総合支援センター事務局長会議は、平成29年5月、6月、8月、9月、11月、12月、平成30年1月及び3月（計8回）に行われた。会議ではセンター担当事業の進捗状況報告、各センター担当地区の原子力災害時医療体制に関する現状報告に加え、次年度に行われるセンター指定要件に関する意見交換を行った。

さらに、各支援センター開催の地域原子力災害時医療連携推進協議会及び全国原子力災害時医療連携推進協議会にオブザーバーとして参加し、各支援センターの運営状況の把握や情報交換等を行った。

<開催日順>

○第1回 支援センター事務局長会議

開催日：平成29年5月10日（水）

場 所：原子力規制庁

出席者：支援センター事務局長、支援センタースタッフ1名

○第2回 支援センター事務局長会議（TV会議）

開催日：平成29年6月19日（月）

場 所：弘前大学

出席者：支援センター事務局長、支援センタースタッフ2名

○第3回 支援センター事務局長会議

開催日：平成29年8月8日（火）

場 所：原子力規制庁

出席者：支援センター事務局長、支援センタースタッフ1名

○第4回 支援センター事務局長会議

開催日：平成29年9月27日（水）

場 所：原子力規制庁

出席者：支援センター事務局長、支援センタースタッフ1名

○第5回 支援センター事務局長会議

開催日：平成29年11月16日（木）

場 所：原子力規制庁

出席者：支援センター事務局長、支援センタースタッフ1名

○第6回 支援センター事務局長会議（TV会議）

開催日：平成29年12月13日（水）

場 所：弘前大学

出席者：支援センター事務局長、支援センタースタッフ2名

○第7回 支援センター事務局長会議

開催日：平成30年1月29日（月）

場 所：原子力規制庁

出席者：支援センター事務局長、支援センタースタッフ2名

○第8回 支援センター事務局長会議

開催日：平成30年3月22日（木）

場 所：原子力規制庁

出席者：支援センター事務局長、支援センタースタッフ1名

2.2 自施設職員への基礎研修の実施

平成28年度に引き続き、弘前大学医学部附属病院に勤務する医師、看護師、放射線技師及び事務職員（今年度より外部委託事務職員も対象者に追加）並びに弘前大学大学院保健学研究科教職員を対象に放射線及び放射線影響に関する基本的知識や放射線測定器の取り扱い方法を習得させることを目的として、原子力災害時医療に関する基礎研修を行った。

平成29年度は7月20日（木）及び2月27日（火）の計2回実施した。講師は平成28年度同様、大学院保健学研究科放射線生命科学領域の助教及び高度救命救急センターの看護師が務めた。

また、支援センター業務を担当している事務職員を対象に、原子力災害時に業務調整員が派遣中に直面し、取り組まなければならないロジスティクスの具体的な課題及び活動中の対応とともに多くの事前準備の重要性を理解する目的で10月20日（金）ロジスティクス勉強会を実施した。講師はDMAT隊員（業務調整員）である事務職員が担当し、参加者は日常的に被ばく医療や原子力災害に関する業務に関わる事務職員5名であった。

本勉強会では、業務調整員の基礎的支援内容の学習、トランシーバーを用いた伝達実習、クロノロジー記載実習、原子力災害時における宿泊施設の確保についてディスカッションを行った。

さらに、ホールボディカウンタ測定に係る基礎知識を学ぶ目的で12月7日（木）にホールボディカウンタ学内研修会を実施した。講師は国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構放射線医学総合研究所の研究員が務めた。本研修会には、放射線技師2名、放射線専攻教員2名、医師1名、事務局長、事務職員5名が参加し、放射線物理の基礎、被ばく線量評価の概要、ホールボディカウンタの活用意義等を学習した。

なお、この他に除染設備を有する高度救命救急センター所属看護師を対象としたタイベック着脱訓練の実施や学外機関主催の研修会等に参加しスキルアップに努めた。

<自施設職員への基礎研修実施状況>

- 原子力災害時医療に関する基礎研修（平成29年度第1回）
実施日：平成29年7月20日（木）
場 所：医学部臨床大講義室

- 原子力災害時医療に関する基礎研修（平成29年度第2回）
実施日：平成30年2月27日（火）
場 所：医学部臨床大講義室

平成29年度原子力災害時医療に関する基礎研修受講者内訳

職名	医師・教員	看護師・助産師・保育士	その他医療従事者	事務系役職員	各回合計
第1回	9	62	6	59	136
第2回	10	44	10	43	107
職名別合計	19	106	16	102	243



7月20日基礎研修

- 平成29年度ロジスティクス勉強会
 実施日：平成29年10月20日（金）
 場 所：支援センター事務局
 受講者：事務5名
 オブザーバー参加：事務局長



10月20日ロジスティクス勉強会（クロノロジー記載実習）

- 平成29年度ホールボディカウンタ学内研修会
 実施日：平成29年12月7日（木）
 場 所：高度救命救急センター地下 器材室2
 受講者：診療放射線技師2名、教員（放射線科学）2名、
 医師1名、事務局長、事務5名



12月7日ホールボディカウンタ学内研修会

- 平成29年度タイベック着脱訓練
 実 施：平成29年7月～9月
 場 所：高度救命救急センター
 受講者：看護師のべ33名

（参考）学外機関主催研修会等参加状況

- 平成29年度災害派遣医療チーム研修
 実施日：平成29年5月22日（月）～25日（木）
 場 所：（独法）国立病院機構災害医療センター（東京都）
 受講者：事務1名（DMAT・ロジスティクスとして）
- 第5回日本災害医療ロジスティクス研修
 実施日：平成29年8月23日（水）～25日（金）
 場 所：岩手医科大学災害時地域医療支援教育センター（岩手県）他
 受講者：事務1名

- 第27回青森県救急業務研修会
実施日：平成29年9月11日（月）
場 所：青森県総合社会教育センター（青森県）
受講者：事務1名

- 平成29年度甲状腺簡易測定研修
実施日：平成29年10月11日（水）
場 所：放射線医学総合研究所 研修棟（千葉県）
参加者：教員（放射線科学）2名
オブザーバー参加：事務1名

- バイオアッセイ手法研修
実施日：平成29年10月～11月
場 所：放射線医学総合研究所（千葉県）
参加者：教員（放射線科学）2名、教員（生体検査科学）1名

- 平成29年度第2回航空機搬送拠点臨時医療施設研修
実施日：平成29年11月1日（水）
場 所：青森県観光物産館アスパム（青森県）
参加者：事務1名

- 平成29年度原子力災害医療基礎研修会（第1回）
実施日：平成29年11月24日（金）
場 所：むつ公済会館（青森県）
参加者：教員（放射線看護学）1名、事務局長、事務1名

- 平成29年度ホールボディカウンター計測研修
実施日：平成29年12月21日（木）～12月22日（金）
場 所：放射線医学総合研究所（千葉県）
参加者：診療放射線技師1名

- 平成29年度原子力災害医療基礎研修会（第2回）
実施日：平成29年12月22日（金）
場 所：ねぶたの家 ワラッセ（青森県）
参加者：教員（放射線科学）1名

- 平成29年度青森県災害医療コーディネーター研修会
実施日：平成29年12月23日（土）～12月24日（日）
場 所：リンクステーションホール青森（青森県）
受講者：事務1名

- 平成29年度統括DMAT技能維持研修及び技能維持研修
実施日：平成30年1月13日（土）～1月14日（日）
場 所：仙台市急患センター（宮城県）
受講者：事務1名

2.3 自施設職員への定期訓練の実施

平成29年度は、担当地域である青森県及び北海道主催の原子力防災訓練へ自施設職員の実地訓練を兼ねて参加した。

青森県訓練は平成29年10月25日と10月30日の2回に分けて行われ、10月25日に野辺地町十符ヶ浦海水浴場駐車場にて実施の避難退避時検査及び簡易除染訓練では、線量評価の専門家として助言する役割を担当した。一方、10月30日原子力災害拠点病院である青森県立中央病院にて実施の傷病者受入・搬送訓練では、原子力災害医療派遣チームは災害対策本部との連絡・調整、技術指導、搬送支援等を行い、専門家は傷病者受入時の線量評価に関する助言を行った。また、訓練シナリオと連動して青森県・支援センター間の通信訓練、原子力災害医療派遣チームの派遣調整訓練、対策室設置の模擬訓練、クロノロジー作成訓練、原子力災害医療派遣チーム登録メンバー及び支援センター事務職員を対象としたメールを用いての伝達訓練等、学内対応訓練を行った。

北海道訓練は平成30年2月8日に行われ、原子力災害拠点病院である北海道大学病院にて傷病者搬送訓練を実施、本学原子力災害医療派遣チームが参加した。北海道大学病院は原子力災害拠点病院に指定後初めての訓練であり、本学原子力災害医療派遣チームから施設養生、装備品について助言を行った。

また、9月30日（土）に福島県にて実施されたDMAT訓練において、本学原子力災害医療派遣チームが南相馬市立病院設置の原子力災害医療拠点本部にてコントローラーを担い、DMATとの連携を確認した。

その他、11月14日（火）実施の平成29年度宮城県原子力防災訓練における通信訓練、派遣調整訓練に前年度に引き続き参加した。



10月30日青森県原子力防災訓練（学内対応訓練）

専門家及び原子力災害医療派遣チーム参加訓練

担当地域	実施日	名 称	派遣 チーム	専門家
青森県	平成29年10月25日	平成29年度青森県原子力防災訓練 (避難退避時検査及び簡易除染訓練)	-	1名
青森県	平成29年10月30日	平成29年度青森県原子力防災訓練 (傷病者受入・搬送訓練)	3名	2名
北海道	平成30年2月8日	平成29年度北海道原子力防災訓練 (傷病者搬送訓練)	5名	-

2.4 専門派遣チーム及び原子力災害医療派遣チームのための資機材等の維持管理

現地の防災関係者や医療関係者等に対して個人防護、作業環境の放射線測定、被ばく患者の線量評価、診療等に関する指導、助言、援助等を行う「専門派遣チーム」及び「原子力災害医療派遣チーム」の体制維持のため、使用資機材の追加整備、測定機器類の保守整備を行った。

	
<p>β線用GMサーベイメータ (TGS-1146)</p>	<p>γ線用シンチレーションサーベイメータ (TCS-1172)</p>
<p>追加整備したサーベイメータ</p>	

点検・校正実施の個人線量計・放射線測定器・解析機器等一覧

品名	数量
個人線量計各種	136
サーベイメータ各種	52
汚染モニタ類	11
放射線測定器各種	10
核種分析装置等	32

2.5 地域原子力防災訓練等への参加及び助言・指導

(1) 訓練に係る助言・指導

担当地域（青森県・宮城県）主催の原子力防災訓練等の調整会議に出席し、訓練等に対する助言・指導を行った。また、青森県原子力防災訓練には線量評価に関する専門家が参加した。

<訓練調整会議等出席状況>

- 原子力災害時における、消防（救急隊員）との協力関係について打合せ
開催日：平成29年6月13日（火）
場 所：青森県庁（青森県）
出席者：医師1名、事務局長

- 平成29年度宮城県第1回原子力防災訓練関係機関全体会議
開催日：平成29年7月24日（月）
場 所：パレス宮城野（宮城県）
出席者：事務局長、事務1名

- 平成29年度青森県原子力防災訓練に係る連絡調整会議（第1回）
開催日：平成29年8月29日（火）
場 所：アラスカ（青森県）
出席者：医師1名、教員（放射線科学）1名、事務局長、事務1名

- 平成29年度宮城県第2回原子力防災訓練関係機関全体会議
開催日：平成29年8月31日（木）
場 所：パレス宮城野（宮城県）
出席者：事務局長、事務1名

- 原子力災害医療訓練（傷病者受入・搬送訓練）に係る打合せ
開催日：平成29年9月29日（金）
場 所：青森県庁（青森県）
出席者：医師1名、教員（放射線科学）1名、事務局長

- 平成29年度青森県原子力防災訓練に係る連絡調整会議（第2回）
開催日：平成29年10月11日（水）
場 所：アラスカ（青森県）
出席者：事務局長

- 平成29年度北海道原子力防災訓練（傷病者搬送訓練）打合せ
開催日：平成29年12月22日（金）
場 所：北海道大学病院（北海道）
出席者：事務局長、事務1名

< 専門家訓練参加状況 >

- 平成29年度青森県原子力防災訓練（住民避難訓練及び避難退域時検査訓練）
実施日：平成29年10月25日（水）
場 所：十符ヶ浦海水浴場駐車場（青森県）
参加者：教員（放射線科学）1名

- 平成29年度青森県原子力防災訓練（傷病者受入・搬送訓練）
開催日：平成29年10月30日（月）
場 所：青森県立中央病院（青森県）
参加者：教員（放射線科学）2名

(2) 訓練参加

北海道及び青森県主催の原子力防災訓練、東北ブロックDMAT参集訓練に原子力災害医療派遣チームが参加した。さらに平成29年9月3日、九州電力玄海原発で行われた内閣府主催の原子力総合防災訓練（福岡県、佐賀県、長崎県）に本学原子力災害医療派遣チームメンバーが評価者として参加した。

< 国または立地道府県等開催訓練参加状況 >

- 平成29年度原子力総合防災訓練
開催日：平成29年9月3日（日）
場 所：九州大学病院（福岡県）
佐世保市総合医療センター（長崎県）
評価者構成：医師1名、看護師2名、診療放射線技師1名

- 平成29年度東北ブロックDMAT参集訓練
開催日：平成29年9月30日（土）
場 所：南相馬市立総合病院（福島県）
チーム構成：医師1名、看護師1名、診療放射線技師1名、業務調整員1名

- 平成29年度青森県原子力防災訓練（傷病者受入・搬送訓練）
開催日：平成29年10月30日（月）
場 所：青森県立中央病院（青森県）
チーム構成：医師1名、看護師1名、診療放射線技師1名

- 平成29年度北海道原子力防災訓練（傷病者搬送訓練）
開催日：平成30年2月8日（木）
場 所：北海道大学病院（北海道）
チーム構成：医師1名、看護師2名、診療放射線技師1名、業務調整員1名

2.6 「原子力災害医療派遣チーム」の派遣調整体制の整備

(1) 派遣調整事務局

「原子力災害医療・総合支援センター」の施設要件として、原子力災害時に、原子力災害が発生した立地道府県等以外から派遣される「原子力災害医療派遣チーム」の派遣調整及び活動支援を行うこと、さらに、担当地区等の原子力災害医療派遣チーム間のネットワーク構築が求められている。平成29年度は、事務局から担当自治体の訓練、原子力災害医療関連の研修会等へ参加し、担当地区等の「原子力災害拠点病院」、「原子力災害医療派遣チーム」について情報収集を行うとともに、訓練等を通して連携を強化した。

(2) 派遣調整訓練

自施設における派遣調整訓練として、平成29年度は、担当地域である青森県及び宮城県で行われた原子力防災訓練において本学原子力災害医療派遣チームの派遣調整訓練を実施した。

2.7 原子力災害医療体制の構築

(1) 地域の原子力災害医療関係者のネットワークの構築

地域の原子力災害医療関係者同士の人的ネットワークを構築し、情報交換等を行うための会合として、平成29年7月13日～14日、北海道札幌市において地域原子力災害時医療連携推進協議会（弘前大学担当地区）を開催した。



7月13日～14日
地域原子力災害時医療連携推進協議会（弘前大学担当地区）

(2) 原子力災害医療専門家のネットワークの構築

原子力災害医療や線量評価の専門家同士の人的ネットワーク構築強化に向けた取り組みとして専門家が集う関連学会、研修会等に本学医師及び教員等が参加し、ネットワーク構築に取り組んだ。

<原子力災害医療関連学会及び研修会等参加状況>

- 第5回日本放射線事故・災害医学会
実施日：平成29年9月16日（土）
場 所：杏林大学 井の頭キャンパス（東京都）
参加者：医師1名、教員（放射線科学）2名、事務局長、事務1名

- 平成29年度甲状腺簡易測定研修
実施日：平成29年10月11日（水）
場 所：放射線医学総合研究所 研修棟（千葉県）

参加者：教員（放射線科学） 2名

○ バイオアッセイ手法研修

実施日：平成29年10月～11月

場 所：放射線医学総合研究所（千葉県）

参加者：教員（放射線科学） 2名、教員（生体検査科学） 1名

○ 平成29年度原子力災害医療基礎研修会（第1回）

実施日：平成29年11月24日（金）

場 所：むつ公済会館（青森県）

参加者：教員（放射線看護学） 1名

○ 平成29年度ホールボディカウンター計測研修

実施日：平成29年12月21日（木）～12月22日（金）

場 所：放射線医学総合研究所（千葉県）

参加者：診療放射線技師 1名

○ 平成29年度原子力災害医療基礎研修会（第2回）

実施日：平成29年12月22日（金）

場 所：ねぶたの家 ワラッセ（青森県）

参加者：教員（放射線科学） 1名

○ 福島第一原子力発電所医療設備視察

実施日：平成29年12月26日（火）

場 所：東京電力（株）福島第一原子力発電所（福島県）

参加者：支援センター長、教員（放射線科学） 2名、事務 1名

（3）地域ネットワーク構築支援

自治体に対して地域の実情に応じた「原子力災害拠点病院」、「原子力災害医療協力機関」の選定や「原子力災害拠点病院」等に対してネットワーク構築強化のために担当地域の自治体及び事業者等と意見交換を行った。

<担当地域ネットワーク会議等参加及び自治体・事業者等訪問状況>

- 原子力災害医療対策に係る事務打合せ
実施日：平成29年5月9日（火）
場 所：宮城県庁、東北電力（株）（宮城県）
訪問者：事務局長、事務1名

- 原子力災害医療対策に係る打合せ会議
実施日：平成29年5月16日（火）
場 所：青森県庁（青森県）
訪問者：医師1名、事務局長

- 原子力災害医療対策に係る事務打合せ
実施日：平成29年6月8日（木）～6月9日（金）
場 所：北海道庁、北海道大学病院、札幌医科大学、
北海道電力（株）（北海道）
訪問者：事務局長、事務1名

- 平成29年度第1回宮城地区原子力災害医療ネットワーク会議
実施日：平成29年10月3日（火）
場 所：パレス宮城野（宮城県）
訪問者：事務局長、事務1名

- 原子力災害医療対策に係る事務打合せ
実施日：平成29年10月4日（水）
場 所：東北電力（株）（宮城県）
訪問者：事務局長

- 平成29年度第2回宮城地区原子力災害医療ネットワーク会議
実施日：平成29年12月18日（月）
場 所：パレス宮城野（宮城県）
訪問者：事務局長、事務1名

- 平成29年度第3回宮城地区原子力災害医療ネットワーク会議
実施日：平成30年2月6日（火）
場 所：パレス宮城野（宮城県）
訪問者：事務局長、事務1名

- 平成29年度青森県原子力災害医療地域連携ネットワーク会議
実施日：平成30年3月2日（金）
場 所：青森県立中央病院（青森県）
訪問者：医師1名、事務局長、事務1名

- 平成29年度北海道地区原子力災害医療ネットワーク協議会
実施日：平成30年3月29日（木）
場 所：北農健保会館（北海道）
訪問者：事務1名

第3章 高度・専門的な教育研修の実施

3.1 原子力災害拠点病院の中核人材等に対し行う高度・専門的な教育研修

支援センターでは、原子力災害拠点病院の中核人材等に対し行う高度・専門的な教育研修及び原子力災害医療派遣チームが派遣先で活動するために必要な高度・専門的な教育研修を実施することとなっている。

5つの高度被ばく医療支援センターが実施する全6回の原子力災害時医療中核人材研修のうち、本学では第4回目を担当した。

○平成29年度第四回原子力災害時医療中核人材研修

実施日：平成29年11月8日（水）～11月10日（金）

場 所：弘前大学 保健学研究科 F棟 5階

医学部附属病院 高度救命救急センター 地下1階

対象者：原子力災害拠点病院もしくはその候補となる病院の医師、看護師、診療放射線技師等

受講者数：20名（医師4名、看護師5名、診療放射線技師7名、その他医療従事者及び事務職員4名）



11月8日（水）第四回原子力災害時医療中核人材研修（研修1日目）
計測実習



11月9日（木）第四回原子力災害時医療中核人材研修（研修2日目）
除染実習・受入実習



11月10日（金）第四回原子力災害時医療中核人材研修（研修3日目）
机上演習

3.2 原子力災害医療派遣チームが派遣先で活動するために必要な高度・専門的な教育研修

本学の担当地域である青森県及び宮城県原子力災害医療拠点病院にて原子力災害医療派遣チームに係る専門研修を実施した。

(1) 青森県原子力災害医療派遣チームに係る専門研修

実施日：平成29年7月22日（土）

場 所：青森県立中央病院 救命救急センター2階 救急訓練スペース

時 間：9時～17時

受講者数：24名（医師5名、看護師8名、診療放射線技師5名、その他医療従事者及び事務職員6名）



除染実習



養生実習



傷病者受入実習（対策本部）



傷病者受入実習（医療処置）

7月22日青森県原子力災害医療派遣チームに係る専門研修

(2) 宮城県原子力災害医療派遣チームに係る専門研修

実施日：平成30年3月17日（土）

場 所：石巻赤十字病院 災害医療研修センター

時 間：8時55分～17時

受講者数：35名（医師10名、看護師12名、診療放射線技師7名、その他医療従事者及び事務職員6名）



傷病者受入実習（対策本部）



傷病者受入実習（医療処置）

3月17日宮城県原子力災害医療派遣チームに係る専門研修

第4章 「高度被ばく医療支援センター」及び

「原子力災害医療・総合支援センター」の事務局長の取組

高度被ばく医療支援センター及び原子力災害医療・総合支援センターの業務を実施するため、両支援センターの事務を総括する専任かつ常勤の事務局長として、前年度に引き続き学長特別補佐1名を事務局長として配置した。

事務局長は、原子力規制庁が今年度8回開催した全事務局長会議に出席し、原子力規制庁への支援センター活動状況の報告、情報共有、運営に係る打合せを行った。また、事務局長会議開催前後に各支援センター事務局長のみによる意見交換会を行った。

各支援センター及び全国のネットワーク構築状況を確認するため他支援センター主催の地域原子力災害時医療連携推進協議会及び全国原子力災害時医療連携推進協議会にオブザーバーとして参加した。ここでは各支援センター担当地域の課題の把握、情報交換等を行った。

また、担当地域実施の原子力防災訓練の調整会議等に参加し、訓練計画構築を支援した。

原子力災害医療派遣チームの派遣調整事務局体制を強化するために今年度は担当地区等訓練参観及び学会、研修等に参加し、実践した派遣調整訓練についての意見交換や災害時の派遣調整に関する情報収集に努めた。

地域の原子力災害医療関係者同士の人的ネットワークを構築し、情報共有・交換を行うための地域原子力災害時医療連携推進協議会は、平成29年7月に北海道で開催した。

さらに、前年度同様に地域ネットワーク構築支援のため、各担当地域開催のネットワーク会議へのオブザーバー出席、自治体・事業者等を訪問し、課題共有、情報収集・意見交換を行った。

支援センターにおける高度・専門的な教育研修の実施に向けた情報収集のため、放射線医学総合研究所にて開催の第一回原子力災害時医療中核人材研修にオブザーバー参加とともに全6回終了後の研修ふり返りにも参加した。